

日本水産物輸出拡大連携協議会

■取組の背景

- 従来、米国国内では日本の水産物に関する情報が少なく、日本産水産物の認知度が低い状況にあった。同時に、日本国内ではMSC、ASC等の認証取得が進んでいないことから、米国の大手スーパー等、認証取得を条件とするマーケットが未開拓であった。

■取組の目的

- 米国の大手スーパー等の調達基準を満たした養殖ハマチの生産及び販路開拓
- 生産履歴を開示するシステムの開発・導入による生産の効率化

■協議会の構成員と役割

	段階	名称	役割
事業実施者	生産	グローバルオーシャンワークス株式会社	・ 養殖ハマチの生産
	流通販売	株式会社魚力	・ 高鮮度凍結機を用いた製品の製造
	統括輸出	Sea Tech Trading株式会社	・ 全体のとりまとめ ・ 米国における販路開拓
	システム開発	Google LLC	・ 生産履歴を開示するシステム構築

■取組内容

生産

◆輸出先の調達基準を満たした養殖ハマチの生産

- ✓ 養殖施設内にモニタリング機器を設置➡生産内のハマチの状態をモニタリングすることで効率的な給餌を行い、**飼料コストを削減**。また、ハマチの健康状態を把握することで、輸出の際に問題となる**薬剤の使用を抑制**

加工・流通

◆高鮮度凍結機を活用した冷凍フィレ製品の製造

- ✓ **高鮮度凍結機を導入**➡米国向け輸出を想定した**高品質な冷凍フィレ製品**を製造。
- ✓ **冷凍コンテナによる輸出**➡冷凍品の輸出によって大ロットの輸出が可能となり、従来使用していた航空便と比較して**輸出コストを削減**

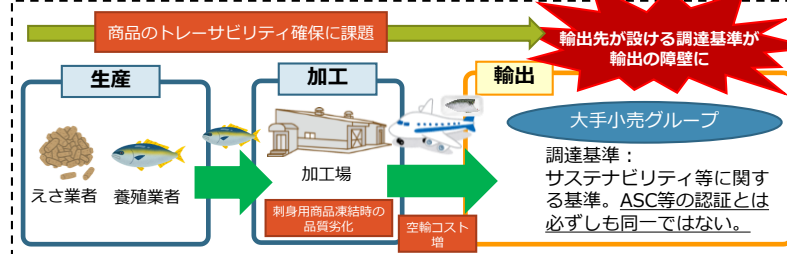
輸出

◆米国における販路拡大とマーケティング

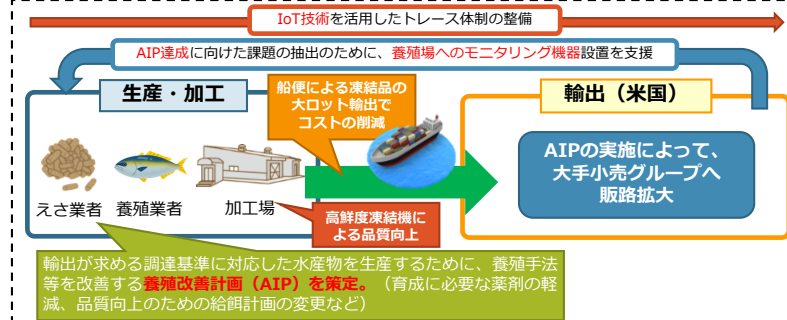
- ✓ **輸出先の調達基準を満たした製品の製造**➡現地の**サステナビリティ基準に準拠した養殖ハマチの生産**に加えて、**トレーサビリティシステムを導入**することによって、生産から加工、輸出までの履歴の開示が可能な体制を構築
- ✓ **米国におけるマーケティング**➡マーケティング資料を作成し、米国内の販売先との商談を実施

養殖ハマチの対米輸出促進

■取組実施前の状況



■本取組で構築したバリューチェーン



■取組の現状と今後の展望

- 導入したモニタリング機器を用いて、魚体数、魚体毎のサイズ等を把握するために必要なデータの蓄積を行い、基礎となるアルゴリズムを確立。
- 今後は基礎となるアルゴリズムを基に、魚体毎の餌食い状態を把握し、飼料コストの削減と漁場環境負荷の少ない生産を目指す。

★本取組によって得られたバリュー★

AI・DXの活用（課題解決）

輸出先の調達基準を満たした養殖ハマチの生産体制構築

コスト削減

高品質な冷凍品の大ロット輸出による輸送コスト削減

販路開拓

米国における養殖ハマチのマーケティング